

全国学力・学習状況調査結果

～傾向と改善に向けて～



4月に、今後の学習指導や学習環境等の改善に生かす目的をもって、小学校(3校)の6学年および中学校(1校)の3学年を対象に、国語および算数・数学の学習の到達度・理解度、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の様子などに関する調査が行われました。

学力とは、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲などを含めた総合的なものですが、今回はこれらの中でもテストで推し測ることが可能な特定部分を調査したものです。

学力に関して、本町の傾向と課題を明確にするために、レーダーチャートを使って全国・全道との領域ごとと比較しています。

■本町の児童・生徒の学力傾向

この調査では、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題A「知識」と、それらを活用することができるかどうかをみる問題B「活用」とに分かれます。

全体として、小学生は4教科(国語A・国語B、算数A・算数B)すべてが全道平均を上回り、算数Aを除き3教科が全国を上回っています。一方、中学生は4教科とも全国・全道平均を下回り、特に数学Aはやや顕著になっています。

領域ごとでは、小学生では特に国語Aの「読むこと」に、中学生では数学Bの「関数」が全国・全道平均を上回りましたが、中学生国語Bの「書くこと」と数学A・Bの「資料の活用」、数学Bの「数と式」に課題が見られます。

また、小学生の算数AとB、中学生の国語AとBおよび数学AとBに、引き続き二極化現象が見られ、学力の低位層への改善が求められます。

学力に関して、本町の傾向と課題についてグラフ(レーダーチャート)を使って全国・全道と領域ごとの平均と比較しています。

※次ページ参照

■生活習慣や学習習慣等の傾向

基本的な生活習慣では、小中学生とも「起床・朝食・就寝」はほぼ全国・全道平均を上回る好ましい傾向となっています。一方、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間は、依然として全国・全道平均より長い傾向が続いています。

家庭学習では、小学生の「家で学校の宿題をする」が全国・全道平均を上回るのに対して、中学生の「家で、授業の予習する」が全国・全道平均を下回り、家庭で授業の予習をする取り組みが不十分な傾向が見られます。

「自己有用感・生き方」の「失敗を恐れなくて挑戦する」と「自分には、よいところがあると思う」、「将来の夢や目標をもっている」では、中学生になるにつれてやや減少する傾向が見られます。

■問題解決に向けての取り組み

学校は、今回の調査結果を踏まえた「学校改善プラン」に基づいて、基礎・基本の定着に重きをおいた授業改善を図るとともに、家庭との連携・協力のもとに家庭学習の徹底を図ることが重要と思われまます。

1 授業改善に努める

- ❖児童生徒にとって興味・関心のもてる課題を設定し、二極化現象の解消のために個を生かした自力解決を図る活動を進め、授業の終末段階では学習の「振り返り」や補充学習に努め、学んだことの定着を確かなものにします。
- ❖児童生徒が意欲をもち、わかりやすい授業にするために、板書の工夫や電子黒板・デジタル教科書などのICT機器の活用を図ります。
- ❖授業では、個人発表やグループでの話し合い、アクティブ・ラーニングの場を設け、主体的・協働的な学びを取り入れた授業づくりに取り組みます。

2 家庭学習の習慣化を図る

- ❖学力の向上は、基本的な生活習慣や学習習慣が基盤になります。長年の課題となっているテレビ等の視聴時間については、短縮を図り家庭学習の時間の確保に努めます。
- ❖家庭学習の内容では、「家庭学習の手引き」を活用しやすく改訂するとともに、授業と関連づけた宿題・復習・予習に継続的に取り組みます。
- ❖家庭と連携し、児童生徒が取り組んだ学習内容に関して適切な評価を行い、家庭学習の習慣化につなげていきます。

3 「かみしほろの健やかな育ち」の活用

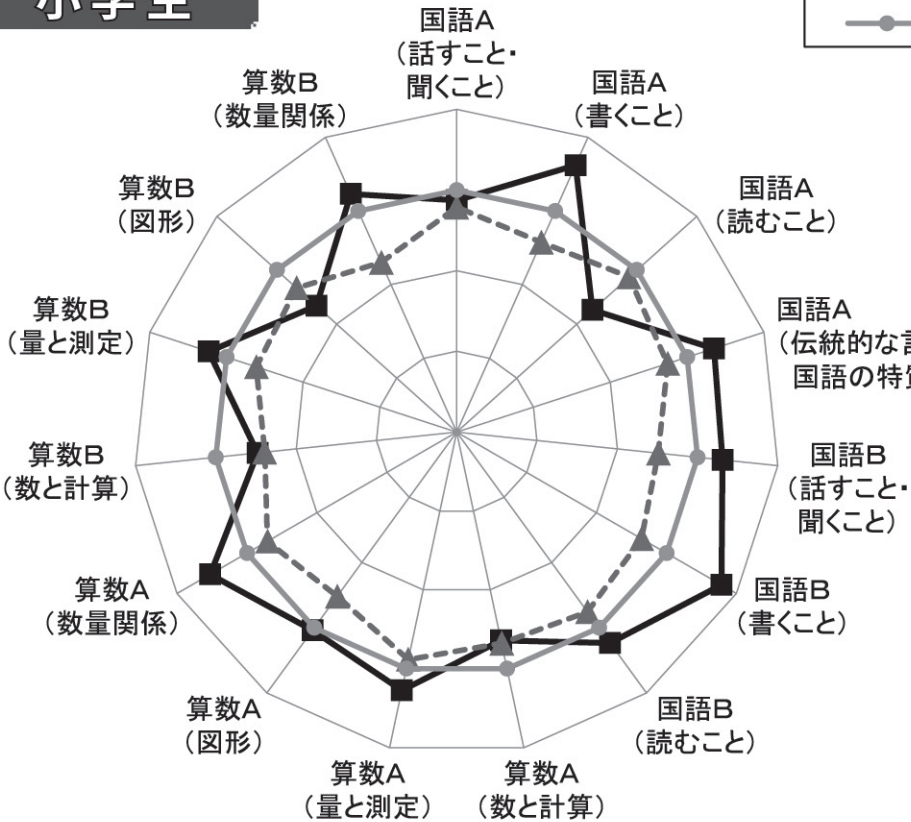
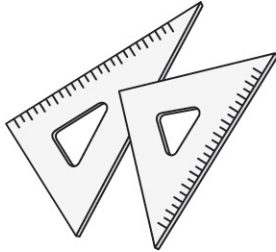
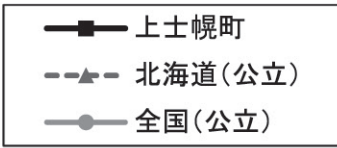
- ❖「地域の子どもは地域で育てる」を基本に、それぞれの立場で役割を果たすため、学校・家庭・地域・行政が連携・協力して、「かみしほろの健やかな育ち」(平成21年7月制定)で掲げる行動例の具現化に引き続き努めています。

4 教育環境の整備

- ❖「上士幌町子ども教育ビジョン」(平成26年12月策定)に定めた目指す子ども像の実現に向けて、地域とともにある学校づくりとしてのコミュニティ・スクール(平成28年4月導入)への取り組みや、幼児期から高校生まで一貫性のある教育活動に取り組んでいきます。

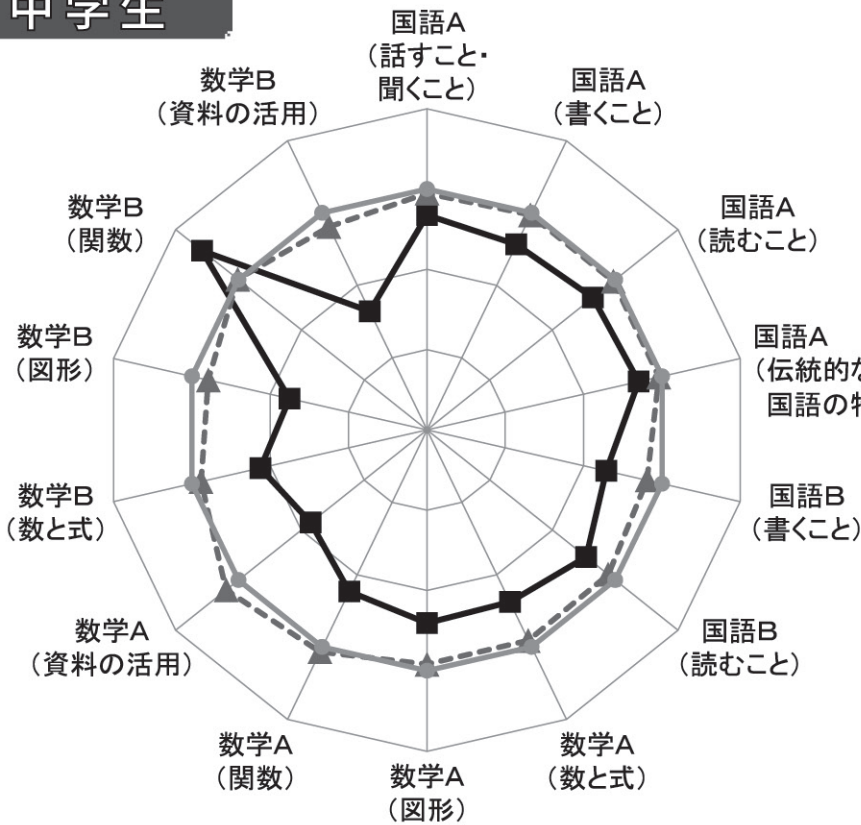
児童・生徒の学力の傾向

小学生



国語・算数のA「知識」・B「活用」の全15領域中10領域は、全国・全道平均を上回っています。
 国語Aの(読むこと)は、今後、重点的に取り組む必要のある領域です。

中学生



数学B「活用」の(関数)の領域は、全国・全道平均を上回っています。
 数学A「知識」・Bの(資料の活用)は、今後の重点的に取り組む必要のある領域です。

※お問い合わせは、教育委員会子ども課(☎2-3014)まで